歴史の道をゆく
the history of road
Act.2

大間越街道(2)

能代からの「八森海道」

慶長九年（一六〇四）、久保田（秋田）藩北部の街道整備の責任者となる道作奉行に任命された桧山城の小場義成によって三倉峯から能代、八森、津軽境（須郷崎）までの道づくりが行われた。八森海道とも呼ばれたこの海沿いの街道は、元和四年（一六一八）、藩境をめぐって久保田、津軽両藩に争いが生じた。久保田藩からは梅津政景らが出向き、その交渉にこの街道はしばしば利用された。

現在、能代から北の旧街道を正確にたどることはむずかしい。時代経過による集落の存亡や、砂丘地帯の地形が流砂による変化などによって、旧道が断片的になってしまったからである。

①

②

米代川の渡し場付近は、現在の能代橋の一〇〇メートルほど上流で「鹿の津」ともいわれた古代の城跡と伝えられている。米代川を渡った大間越街道は常盤（能代市）方面に行く道と分かれ、西の能代温泉方向に向かい落合を通って須田に入った。落合の西側に位置する「小館塙」は中世、安東氏が町づくりをした跡ともいわれるが、藩政時代後期には小館塙番所が置かれて不正交易をする抜荷の監視や流材木、難破船の処理に当たっていた。ここには桧山からの役人が出向き、能代側の沖口番所とともに異国船接近にも備えた砲台場が置かれていた。

現在の大間越街道（国道101号）と旧街道が重なるのは、須田から竹生天神前までのわずか一キロメートルほどだけである。

菅原道真を祭る竹生天神（菅原神社）は享禄年間（一五二八～三二）、ここを開拓した渡辺新十郎という人によって創建されたという。海道は天神から砂丘を越え、浜辺の道と今の国道の中間（峰浜村ポンポコ山周辺）を北に向かい、能代カントリークラブの北はずれで浜に出て、そのまま八森方面に向かったようだ。

沼田から北、かつては八森海道沿いにあったという水沢村は、寛文一〇年（一六七〇）頃、東側砂丘上に移ったとされ、その中心を今は国道が通っている。水沢公民館に残る文化四年（一八〇七）建立の庚申塔には「右能代道」と彫られているが、「のしろ道」の道標を兼ねた石塔は能代周辺に多く見られ、能代がこの地方の中心地であったことを物語っている。

その先にある目名潟は旧街道は通っていなかったが、菅江真澄の『雪の出羽路』でも、目名潟村や母谷山麓の蝦夷館が記録されている。八森町に入ると八森、古屋敷、浜田の集落道が旧街道と重なり、八森集落の北の外れに曹洞宗の松源院がある。そこから白瀑川をさかのぼると「みこしの滝浴び」で知られる白瀑神社がある。

浜田から沼川を渡って「馬の神」の奇岩を見ながら椿まで北進する。椿はかつて漁港として栄え、また最近まで銀製錬を行った発盛製錬所の特異な煙突があったが今はない。通称石坂の上部には琴平神社（金比羅さん）があり航海安全の役割を果たしていた。ここには唐船番所が置かれ、ロシアなどからの異国船が見張られていた。

中浜、茂浦、立石の集落を結ぶ道は、現在は国道のバイパスも通っているが、茂浦から立石まで旧街道は山側を通っていた。横間と滝ノ間を結ぶ道筋には、幕末期から百万遍塔や太平山信仰の石塔などが目につく。

④

⑤

滝ノ間と小入川間は山側を街道が通り、現在、「はたはた館」隣のふれあいパークとなっている御処ノ台が村の境で、文化九年（一八一二）に建てられた庚申塔がある。

岩館から津軽境となる須郷崎までは磯浜を足下にしながらの道であったが、旧岩館小学校敷地に岩館番所跡がある。岩館には、このほかに境目番所も置かれ、藩境の取り締まりをする一方で、異国船警戒のため、桧山から士族が派遣されていた。

③

県境の須郷崎には御境明神がある。須郷山矢立という境に元和四年（一六一八）に置かれた両藩それぞれの境目明神二基は、現在の境明神堂よりやや西側にあったものという。

藩境を越えた街道は、この後、海岸沿いに進み、深浦、鰺ケ沢を通り、弘前城下へと続いていた。

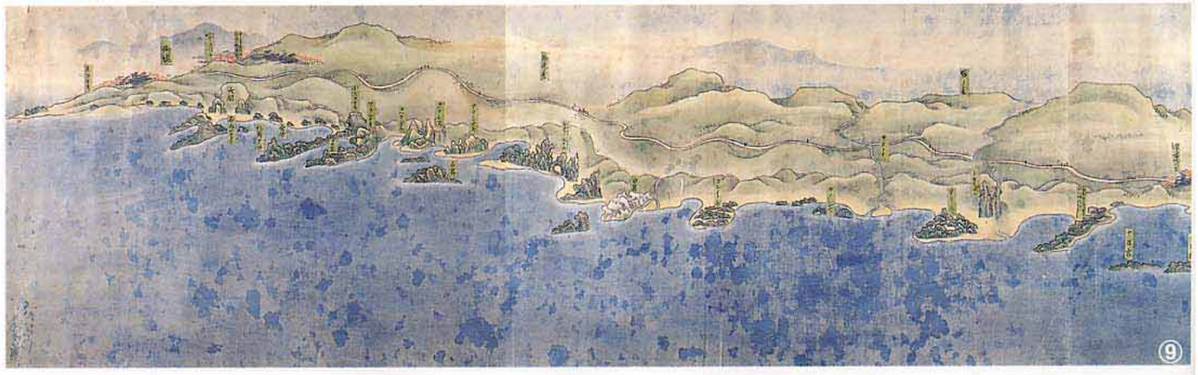
かつての八森海道から西津軽に至る大間越街道は、世界自然遺産の白神山地やJR五能線沿線の海岸美と合わせて脚光を浴びているが、荒磯づたいに津軽に続く海の道には、旧街道の面影が色濃く残っている。

⑥

⑦

⑧

※庚申塔
路傍に青面金剛を祀る石塔で、道の神となる三猿の形を刻んであることが多い。街道の目印ともなった。


⑨

①**日和山の方角石（能代市後谷地国有林内）**
日和山とは北前船の運航や、漁師が出漁のため空模様を見る丘で、国内各地にある。藩政時代の方角石は県内では他に三カ所残されているのみ。

②**米代川舟渡場跡（能代市）**
明治三一年（一八九八）に能代市橋が架けられる以前の舟渡場。大間越街道中随一の大河である米代川の一番河口に近い舟渡場だった。

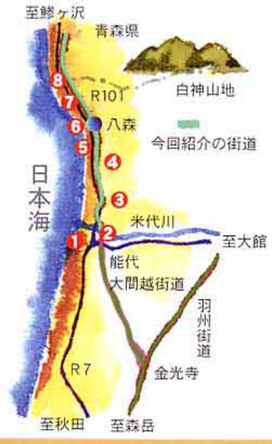
③**杉沢熊野神社（能代市磐杉沢）**
街道から東へ二キロメートルほど外れたところに位置し、坂上田村麻呂の勧請と伝わる近在集落の産土（うぶすな）神社。近くに杉沢台遺跡がある。

④**白旗神社庚申塔の道標（峰浜村田中）**
街道の東側のすぐ田中集落に建つ神社境内にあり「右能代」「左ときわ」と彫られている。道路工事の際ここに移されたと思われる。

⑤**旧街道の松並木（八森町八森）**
街道沿いに並木はほとんど残されていないなか、道の両側に十数本かろうじて残る。太さから明治時代以後に植えられたと思われる。

⑥**松源院（八森町八森）**
戦国期に現在の白瀑神社に以前からあった寺院を、八森城主武田重左衛門が湯ノ沢村に移築し大伽藍を建立し開基したと伝わる古刹。

⑦**岩館番所跡（八森町岩館）**
旧岩館小学校（現在八森北保育園）敷地に岩館番所があった。境目番所と合わせ藩境の取締まりの他、幕末には異国船警備にあたった。

⑧**境目明神（八森町須郷崎）**
須郷崎の小高い丘にある。秋田側と津軽側に向き合って建っていて、現在の明神堂は明治時代に建て替えられたものとされている。

⑨**「秋田街道絵巻」より岩館の図**
荻津勝孝・画と伝えられ、久保田城下の八橋から津軽藩境までの街道風景が全三巻（三一メートル）に描かれている。（秋田市立千秋美術館蔵）